

数多くのイノベーションを実現し、今もICTを通じて社会を支える富士通。川崎に本店を置き、かながわSDGsパートナーとして地域貢献に積極的に取り組んでいる。食を中心とした商品の供給事業などを手掛ける生活協同組合パルシステム神奈川が立ち上げた「食品ロス」削減に取り組むNPO法人セカンドリーグ神奈川との連携もその一つだ。

2012年に設立したセカンドリーグ神奈川は、地域住民やコミュニティ、行政に働きかけて社会的価値ある活動や事業を支援する団体で、起業や子育て支援団体の支援事業をはじめ、協働連携創造事業、各団体からの受託事業などを行っている。県と協働して食と地域をつなぎ県内から貧困をなくすKIMODEI構築事業「ビーバーリンク」の活動に取り組んでいる。県政策局SDGs推進課主催の「かながわSDGsパートナーアクションプログラム」をきっかけに、令和2年度の農林水産省の補助事業である「フードバンク活動マッチング支援事業」に採択され、セカンドリーグ神奈川と富士通でのSDGsへの協働事業としてマッチングシステムの導入が決定した。



食品提供事業者とフードバンク、利用団体の3者を統合管理したこのシステムは、①食品活用情報の流れを一元化（情報の一元化）することで食品ロスを削減する ②倉庫・物流の費用削減 ③報告作業の効率化を目指す。子ども食堂や若者カフェ、ひとり親支援団体など、食を通じて

当シリーズは富士通が提供しております。

地域と 共に

Vol.4

食品ロスを防ごう。「食」を通じた支援活動のマッチングシステム

ネットワークが広まる中、食品ロス防止にも効果を発揮するという。同法人事務局長の青柳直子さんは「従来手作業で食品メーカーからいただく食材などを各支援団体に提供していた。SDGs協働推進パートナー企業である富士通さんとのマッチングシステムで、人手不足も解消され、各エリアの食品提供・供給もスムーズになり、他の企業さまからの協力も可能となる」と語る。



ビーバーリンク@鶴見での食品仕分作業

このシステムは、従来のNPO法人ではなしえなかったネットワークに代わる新しい仕組みとしても期待されている。青柳さんも「コロナ禍で食支援はますます重要で身近なものになってきている。今後も富士通さんと連携しながら、今まで未利用だった冷凍品や青果なども含めた食品の有効活用を後押しするマッチングシステムを広め、フードバンクの課題を解決して、神奈川の『新しい縁結び』事業者としてやっていきたい。さらに私たちの役割は重要さを増すと考えています」。

富士通の担当者も「今後も『食』で支えるビーバーリンク活動を支援して、より良い社会づくりの一助となれば」と抱負を語っていた。これからの社会に必要な事業としても寄せられる期待は大きい。

※ビーバーリンク：子ども食堂や地域食堂若者の居場所やシニアのサロンなど、地域の活動を食で支援する取り組み。

今回の富士通技術提供パートナーご紹介

特定非営利活動法人
セカンドリーグ神奈川

横浜市港北区新横浜3-18-16
新横浜交通ビル
TEL 045(470)5564
FAX 045(470)4178
URL
<https://www.sl-kanagawa.org/>
Eメール sl-kanagawa@pal.or.jp

